

# 日本作業療法教育学会ニュース 第 76 号

2022 年 1 月 10 日発行  
日本作業療法教育学会

＝紙面案内＝

- 1－3 面：第 26 回日本作業療法教育学会大会を振り返って
- 3 面：第 27 回日本作業療法教育学会大会のご案内
- 4－6 面：課題研究 調査報告
- 7 面：リスニングアワーを体験して
- 8－11 面：事務局だより

事務局  
〒135-0043 東京都江東区塩浜 2-22-10  
東京保健医療専門職大学  
リハビリテーション学部 作業療学科 近野 智子  
TEL: 03-6659-7796 (直通) FAX: 03-6272-5672  
E-mail otkyoiku@gmail.com

## 第 26 回日本作業療法教育学会大会を振り返って

第 26 回日本作業療法教育学会大会

大会長：東川 哲朗（金沢脳神経外科病院）

11 月 27 日に第 26 回日本作業療法教育学会大会を開催することができた。新型コロナウイルスの影響でオンラインでの開催を余儀なくされたが、関係各位の多大なるご協力のもと開会でき、ほっとしているというのが実感である。

今回は「卒後教育新時代」というテーマで、大きくは卒後教育の必要性をメッセージとしてお伝えしたつもりである。

従来と異なり、新卒者がそのまま即戦力として現場で働くことは非常に難しくなっており、どの施設においても卒後教育の必要性を感じているだろうし困っている施設も多い様に感じている。今回はそれらの課題に取り組んでおられる先生方にシンポジストとして発表頂くとともに、学会企画の講演においても同種の内容を用意いただいた。投げ掛けると私の期待を遥かに超える内容に私自身が大いに勉強させて頂く事になり大変うれしく感じている。

今回オンライン開催を残念に思っているが、逆にオンライン故に参加機会が増したことで 100 名を超える参加をお迎えすることが出来た。臨床現場の参加者が例年になく多かったと伺っており、同じ課題を持たれる現場の先生方の期待に応える内容を提供できたのではないかと感じている。

作業療法の教育は養成校だけでなく、臨床教育と卒後教育も合わせて考えていく必要があるが、今後ますますこれらの充実が求められると感じている。今回ご参加の臨床現場の方々が、作業療法教育に関わっていく強力な仲間として本学会に参画いただけることを願っている。

臨床教育に触れたが、直近の私たちの大きなテーマは変わりつつある臨床実習であると思う。この点に関し、高校野球での学生指導の第一人者の星稜高校野球部名誉監督・山下智茂先生に特別講演頂いた。先生自身が以前の猛烈指導から現代の高校生に合わせた教育指導に変わられておりその変遷や、その時期、時期の想い、力点の置き方をお伝えいただいた。このお話は、従来から臨床実習指導を担ってこられた指導者にまさに、参考になる内容であったかと思う。講演後、先生から「皆さんは大変すばらしいお仕事をなさっている（その自覚・自負がありますか）。どうぞこれからも頑張ってお仕事されてください」と有り難いエールを頂き、思いを新たにされた。先生は来春からの活動も決まっております、まだまだ学

生指導に情熱をもって挑まれる。私たちも負けずに、人々の役に立つ作業療法士の育成に共に挑んでいければと思っている。

最後に、今回の開催は本当に周囲の色々な方にご援助・ご協力頂き開催することが出来た。人の縁や繋がり大切さを実感することも出来た。改めて皆様に深く御礼をお伝えし大会の振り返りとしていたい。

## 第 26 回日本作業療法教育学会に参加して

初台リハビリテーション病院 乙黒 竜一

近年では COVID - 19、働き方改革と作業療法士をめぐる社会情勢が大きく変化してきており、臨床現場でも電気刺激療法、修正 CIMT、ロボット療法など他職種から作業療法士に求められる知識・技術も日々変化している。

そんな中、私は法人内の異動により 8 年ぶりに回復期リハビリテーション病棟の配属となり、若いスタッフと関わる機会が非常に増えた。彼らと関わる中で改めて卒後教育の重要性や難しさを感じていたところ、本学会大会の「卒後教育の新時代」というテーマに魅かれ参加させていただいた。

特に印象に残ったのが、「臨床実習を経験していない新人スタッフは患者との（心身ともに）距離のとり方、リスクマネジメントが苦手である」という私が感じていた課題を他の先生方も感じていたことだ。卒後教育では例年以上にその点に時間を割く必要があると感じた。

本学会大会を通して卒後教育を充実させていくために明日からできることが整理できた。積極的に養成校の先生方と連携強化を図り、我々が卒前教育の内容や流れを知ること、臨床現場の現状を養成校の先生方に発信していくこと。これらにより卒前・卒後と一貫性のある教育体制が構築できると感じた。末尾になりますが、コロナ禍であってもオンライン開催による貴重な学びの場を提供していただいた、大会長の東川先生はじめ事務局の皆さまに心より感謝申し上げます。

## 第 26 回日本作業療法教育学会参加印象記

昭和大学横浜市北部病院リハビリテーション室  
昭和大学保健医療学部作業療法学科  
渡部 喬之

本大会は、私にとって初めて参加した教育関連の学会である。5 年前より臨床教育職員となり、主に実習指導を担ってきたが、教育方法は自身の知識と経験のみに頼っていた。より自身の教育スキルを向上させるための第一歩として、本大会参加と演題発表を決めた。

今回発表した内容は、自身が今最も興味を持っている、学生の情意領域教育についてである。これまで情意領域の問題により、臨床実習が上手くいかない学生を多く経験してきた。実習の中でどのように情意領域教育を行っていくべきか、検討していくための第一歩として文献レビューを行い、演題発表を行った。本大会の中で非常に魅力的に感じたのが、ブレイクルームによる質疑応答の時間が十分に確保されていることである。座長の先生の進行のもと、多くの貴重なご意見をいただき、これまで私が発表

してきた学会以上の充実感が得られた。

発表以外にも、「卒後教育」をテーマとした講演、シンポジウムはとても刺激的であった。所属施設の卒後教育を最近任された私にとって、講演の中で他の施設の取り組みを聞くことができたのはとても有意義であった。今回の学会を経て、実習を含む卒前教育から継続した卒後教育を通して、目指すべき姿の一つのキーワードとして「社会貢献」の重要性を感じ、ぼんやりと自身のやるべき道筋が見えた気がした。今回の経験を、所属施設の卒後教育発展に活かしていきたい。この熱を絶やさず、来年も新しい演題を持って本大会に参加したい。



## 第 27 回日本作業療法教育学会のご案内

第 27 回日本作業療法教育学会 大会長  
藍野大学医療保健学部作業療学科  
鈴木 孝治

日本作業療法教育研究会の時代より、時々参加しておりました私ですが、今から約 20 年前、臨床の現場から教育機関に職場を移したあたりから、作業療法教育の未来について考えることが多くなりました。それまでの臨床の現場で後輩の教育について考えていないわけではありましたが、理想的な姿に変えてゆくには、まずは「教育現場から変革」という思いが強くなりました。そして約 10 年前頃より日本作業療法士協会教育部の養成教育の業務を担うこととなってからは、本格的に「教育現場から変革」という考えをまとめつつ、現在に至っております。なお現在、日本作業療法士協会教育部でも、新しい生涯教育の制度を養成教育と連続させるべく「卒前卒後の一貫した教育体制」をコンセプトに構築しております。このような情報と、「教育」を真剣に議論する日本作業療法教育学会との連携が、質の高い日本の作業療法教育を実現できると信じております。

臨床と教育の双方の現場に約 20 年、どっぷりと浸かってきました私個人としましては、教育機関と臨床現場との太いパイプを構築してゆくことが、作業療法教育の理想的な姿に導く近道であると確信しております。

このような背景から、第 27 回の学会大会は、「真の作業療法教育のあり方」というテーマで、開催したいと考えております。日程は、2022 年 11 月中旬の予定です。内容としては、臨床での実習指導の工夫、教育機関との連携のヒント、実習前の学内での実習準備教育の検討、など多方面にわたって議論できればと考えております。形式としては、これまでの一般演題、フラッシュトーク、講演、シンポジウムなどを踏襲して企画したいと思います。しかし、現段階では、まだ実行委員会も組織できておりませんので、今後の学会ホームページなどで詳細をお伝えして行きたいと考えております。

コロナの感染状況に左右されることは前提ですが、大阪の現地での開催を基本に準備するつもりです。みなさまのご参加をこころよりお待ちしております。



## 「COVID-19 による作業療法学生の就職後の新人教育への影響」に関する調査報告

神戸学院大学 田代 大祐

## 調査の背景と目的

COVID-19 の発生に伴い、養成校の多くでは臨地実習が中止となり、例外的に臨床実習の代替対応を余技なくされ、臨地教育が十分に行えない学生も多数存在した。そのため、これらの臨地教育経験の不足による就職への影響が懸念された。生嶋ら<sup>1)</sup>の昨年度の調査研究では臨地実習の中止は就職の採用判断に影響しないことが示された。またそれと共に多くの施設において採用後の新人教育では例年と異なる対応策（教育内容の拡大・変更）を検討していることが明らかとなっていた。

本研究はその調査の継続研究にあたり、COVID-19 前後で就職後新人教育がどのように変化したのかを明らかにすることを目的とした。本報告では、結果を要約し報告する。

尚、本調査は日本作業療法教育学会の課題研究（2021 年度）の委託を受け実施した。

## 調査方法および結果

1. 対象施設（OT 協会名簿に在籍者数 20 名以上の施設が対象）

アンケートは 2021 年度入職者における約半年間の新人教育および実務教育状況として 10 月に「作業療法部門責任者」宛てに郵送にて調査し回答を得た。

2. 回収率

55.1% (226/410 件) ※OT 協会名簿にて在籍

者 20 名以上の施設を対象とした。

## 3. アンケート結果

## 【入職者の増減】

入職者の増減

増加 17.9% 減少 27.5% 維持 54.6%

入職者の増減は COVID-19 の影響を受けたかは 22.3% いいえ 77.7%

## 【臨地実習へ制限を生じた入職者の有無】

あり 82.4% なし 17.6%

## 【昨年度との新人教育内容の比較】

拡充<sup>※1</sup> 50.2% 維持 40.8% 縮小 9.0%

※1 拡充・・・新人教育の充実を目的とした内容の拡大・変更を指す。

⇒拡充した内容（拡充を行った施設のみの重複回答）（表 1 参照）

⇒教育システム等の形式および理論の実施状況と拡充の有無（表 2 参照）

## 【新人教育の成果】

※0～10 点の 11 段階にて評価

2020 年以前平均 6.4 点 2021 年度平均 6.0 点

⇒昨年度との比較した成果の推移

上昇 26.6% 維持 28.2% 低下 45.1%

⇒新人教育内容の拡充状況と成果の推移についての関連（図 1 参照）

表 1: 作業療法教育能力における拡充の割合

作業療法教育 3 領域の能力	OJT <sup>※1</sup>	Off-JT <sup>※2</sup>
認知: 知識・理解力・解釈力・判断力・問題解決能力等	43.5%	28.7%
精神運動: 面接・観察・検査・測定・作業技術・治療技術等	47.1%	25.5%
情意: 態度・習慣等	28.7%	17.0%

※1 OJT (On the Job Training): 実務時間内の教育

※2 Off-JT (Off the Job Training): 実務時間外の教育

表 2:各教育システム等における実施率および拡充率

教育システム等※4	実施	拡充
クリニカルクラークシップ	69.4%	27.5%
プリセプターシップ	90.1%	24.3%
PBL※1	12.2%	5.0%
OSCE※2	25.2%	8.1%
IPE※3	33.8%	5.0%
OJT	84.7%	28.5%
ポートフォリオ	29.7%	7.2%
プログラム学習	17.6%	5.0%
形成的評価	25.2%	5.4%
メンター制度	54.1%	7.7%

※1 OBL:Problem Based Learning(問題に基づく学習)

※2 OSCE:Objective Structured Clinical Examination  
(客観的臨床能力試験)

※3 IPE:Inter-Professional Education(多職種連携教育)

【今年度の新人教育の成果について】※自由記載  
から一部抜粋

～昨年度と比較し成果が上昇した施設の理由～

- ・年々基盤ができてきている。
- ・大きなチームだけでなく中・小チーム(5名)のチーム制の中でプリセプター、その上のリーダー、各チームをまとめるマネージャー、サブマネージャーの各構成と機能がうまく動くようになった。
- ・入院患者数が減り、教育にあてる時間が増えた。
- ・「自己評価の記録」や「ご本人(新人)に学生時代どのような実習を受けたか」を詳しく聞きとり、今年度の教育内容に反映させた。
- ・例年以上に手厚い教育が必要だという認識が施設の職員側にあったため、今までより丁寧な教育が行われた。
- ・臨床実習の経験が少ないとわかっていたため、それを見越した教育体制の準備ができ、プリセプターや部内別指導など職員内で分担して行えた。
- ・OJTの頻度を上げた。臨床内での指導時間を増やし、臨地実習未経験も例年通りの到達具合となった。
- ・OJTに加え、OFF-JTを拡充させ、課題の確認と臨床に即した知識、技術の提供ができた。
- ・臨地実習を実施できていないということで、よりクリニカルクラークシップのような関わりを意識して取り組むことができた。
- ・入職後一か月はクリニカルクラークシップ理論で患者さんとの実体験の期間を増やした。
- ・臨地での実習経験が不足していることを見越し

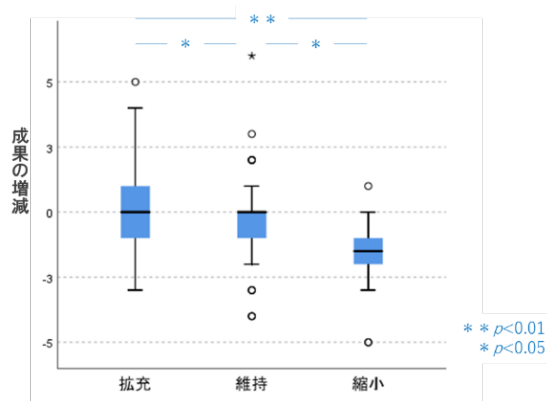


図1教育拡充状況における成果推移※1の比較

※1 成果の推移:新人教育の成果において2021年度の評価得点から2020年度以前の評価得点を差し引いた値

て、今年度から「経験チェックシート」を導入し、新人教育プロセスの見える化を図った。

- ・今までも指導者をつけていたが、クリニカルクラークシップ制度を取り入れた新人教育に変更した。
- ・新人が患者さんを担当するまでにより充実した見学・模倣等を取り入れた。
- ・部署全体のコミュニケーションの機会を増やすことで現場での新人の積極的な発言や行動が増えた。

～昨年度と比較し成果が低下した施設の理由～

- ・研修の充実は図れたものの本来OTSとしての実習で得られる自信、自己効力感の低さに対する新人教育が不十分と考えられた。
- ・臨床実習を経験していない為、就職してからも学生の延長気分で現場に出ている。新人自身の資質にもよるが学生時代に実習で体験すべき事をしていないので現場教育の負担が増えている。
- ・実技練習を感染防止の観点よりかなり制限し、時間数は変わらないが練習相手を変えなかった。加えて、患者の治療実践見学を動画撮影にて行った。
- ・実技練習を行う時間がコロナ感染症対応でとれなかった。
- ・コロナ感染症対策のため入院外来の担当分割と病棟担当制にせざるを得なかったため、経験する疾患の幅が狭くなってしまった。

- ・感染対策で、長時間の会話や密を避けているため、教育制度以外で、新人同士での会話やちょっとした情報共有がしにくくなっていた。その為、個々の教育的なスキルアップの機会が減っている印象がある。
- ・患者さんと接することも不慣れな印象をうけ、リハの実務も緊張しており、簡単な手技も円滑に実施できていなかった。
- ・従来の新人教育講習会や勉強会自体、感染予防の視点から縮小せざるを得なかった。

【臨地教育経験の不足の就職採用に際しての今後の不安感】

不安あり 71.1% 不安なし 28.9%

【臨地教育経験の不足者への対応は重要であるか】

重要である 91.8% どちらともいえない 4.1% 重要ではない 4.1%

【臨地教育経験の不足者への対応方法についてのご意見】※自由記載から一部抜粋

- ・就職してから1~2年はインターンシップのような関わりが必要である。より多くのフォローアップや研修が必要となると考える。
- ・現場感覚や臨場感、仕事の内容のイメージが弱いので働きはじめた時に心身ともにストレスがかかる。
- ・実習で失敗を経験していないため怖さを知らない。
- ・そもそも学生としての生活から医療従事者としての生活になるということに対する心づもりができていない学生もいる。就職後のストレスに対応できずに離職につながってしまう場合もみられている。
- ・新人の能力に合わせた教育を今までも行ってきたため経験不足は入職後補充できると考える。
- ・今までの新人と異なり戦力となるまでに時間を要す。メンタル面でのフォローも必要。
- ・即戦力は求めている。基本的に当院では半年から1年かけて教育していくため実習の量や質はあまり関係ない。
- ・初期研修と見学・アシスタントの期間の長期化が必要である。

- ・介入のプロセスを体験していない為、教育に時間と手間がかかる。介入のプロセスを学んでから就職して欲しい。

#### 4. まとめ

以下に調査結果の要点をまとめる。

- 多くの施設では臨地実習へ制限を生じた新人職員が入職されており、約半数は何かしらの拡充を行っていた。
- 拡充内容は検査や治療技術にあたる精神運動能力の向上を主体とし、OJT やクリニカルクラークシップなどより実務内教育が主体であることがわかった。
- 新人教育の成果としては昨年度より低下した施設が多かった一方で、新人教育内容の拡充した施設はそうでない施設に比べ成果を有意に増加させていた。
- 成果が上昇した施設においては教育内容の拡充への意識が高く、臨地実習ができないことで不足する経験を補う取り組みをされていた。
- 一方、成果が低下した施設においては施設方針より感染症対策が徹底していることからくる教育手段の制限により難渋している状況が伺えた。
- 臨地教育経験の不足者の対応はほとんどの施設で重要であるという認識であった。特に新人へのメンタルフォローの重要性を感じる施設は多く、より長期的かつ段階的な教育の必要性が感じられた。

最後に、COVID-19 への対応等で普段よりも多忙であるにもかかわらず、調査に協力いただいた養成校の教員の先生方、就職対象施設の先生方にこの場をお借りして深謝いたします。

#### 参考文献

- 1) 生嶋みのり, 富田創, 坂口美沙, 小川真寛: 新人作業療法士に対する採用担当者の採用判断についての調査研究—新型コロナウイルス感染症による臨地実習の経験不足が及ぼす影響—. 作業療法教育研究, 21:28-34, 2021.

## 「OTのためのリスニングアワー」は続きます

前回のニュースでご紹介した「リスニングアワー」。2021年は初夏と初冬に計10回開催されました（ノンクリティカル・リスニングのススメ：5月17, 23, 29, 31日, 6月5, 6日, OTのためのリスニングアワー2021初冬：11月15, 22日, 12月6, 20日）。2022年度のスケジュールも順次公開されます。月曜日の21時から約1時間、Zoomによるオンライン開催。ご参加はこちらから<https://forms.gle/sdVXvEN8tDYvA7zF9>).

## リスニングアワーを体験して

北海道文教大学 大川 浩子

私がリスニングアワーに参加したきっかけは、「ノンクリティカル・リスニングのススメ」というお知らせが来たことでした。自分是对話や関係性について研究しており、研究テーマに関連することと思い、申し込みました。そして、実際に参加してみると、今まで体験したことがない感じがしました。特に印象深かったのは、一人ひとりが自分のストーリーを話した後にガイド(進行役)が行う、リプリーズというセッションの振り返りです。初めて体験した時は、まるでコラージュを見ているかのようだと思いました。

その後、ガイドの最初のステップであるプラクティショナーの研修を受講しました。研修を受けた結果、知識レベルではリスニングアワーの進行方法は理解できたのですが、実際にできるかは大変心配でした。しかし、次のステップに進むためには、ガイドを5回経験する必要があります、思い切ってやってみました。その中で、初めて、語られることを待っているストーリーがあることを感じました。また、支援の仕事をしている方が、自分は話をしたかったことに気づいたという話を聞き、いつも聞く側に回っている人が語ることの必要性も実感しました。

支援者にとってリスニングアワーは、日ごろ聞く側の人間が自分のストーリーを語り、聞きあうということで、学びと癒しになるのではないかと感じています。リスニングアワーの構造上、自分が語っている時には他の方は聞いています。自分の話を遮らずに聞いてもらうことで、自分自身を振り返ることができると思います(あくまで自分の感覚ですが)。また、他者の話をさえぎらずにしっかり聞くことで、新たな気づきが得られ、エンパワメントされる部分もあるのではないかと思います。

教育においても、学生たちがお互いにストーリーを語り、聞きあうことで様々な価値観に触れ、一人ひとりのストーリーを尊重する経験ができると思います。この経験は作業療法士が対象者のストーリーを大切に、その人の価値ある作業に働きかける基本的な力を養うと思います。実際の教育の中に取り入れることができたらよいと思いますが、個人的には教員と学生のような力関係がある中ではなく、外部のガイドを活用するなど力関係のない対等な関係の方が望ましいのではないかと考えています。この点は、まだ自分もリスニングアワーを始めたばかりですので、あくまで感覚の域を抜けていません。今後自分の経験を積みながら、考えていきたいと思っています。

## 事務局だより ～事務局よりお知らせ～

### 日本作業療法教育学会 第26回総会 議事録

日時：2021年（令和3年）11月27日（土）15時～16時

方法：zoomによるWeb会議

基地局：日本作業療法教育学会事務局 東京都江東区塩浜2-22-10 東京保健医療専門職大学 近野智子

1. 開会のことば：近野事務局長
2. 議長選出 議長：嘉納綾（神戸総合医療専門学校）
3. 書記任命 議事録書記：熊谷ちほり（専門学校ユマニテク医療福祉大学校），丸山祥（湘南慶育病院）
4. 議事録署名人任命 議事録署名人：春原るみ（長野保健医療大学）  
※3.～5. についてWeb開催で時間の制約もあり，学会から予め議長団を指名した。
5. 定数確認：会員249名，総会出席（zoom参加者）32名，委任状112枚（白紙委任112枚，個人委任0枚）  
出席者数と委任状の総数は144名であり，定員の過半数の125名を超え総会が成立されることが報告された。
6. 議案  
第1号議案から4号議案について，事前に会員へ送付した議案書をもとに，ポイントについてスライドを用いて説明を行った。

#### 第1号議案 2020年度 事業報告の件

（1）総括担当（佐藤会長，近野事務局長）

① 理事会の開催（5回）

第1回（2020年9月9日：Web会議） 第2回（2020年10月21日：Web会議）

第3回（2020年11月8日：Web会議） 第4回（2021年3月20日：Web会議）

第5回（2021年7月19日：Web会議）

② 第25回総会（Web開催；2020年11月8日）の開催

③ 第26回総会の準備

④ 第25回総会における会員の意見に関する検討

（総会委任状提出者の議決権について）

会員意見：「委任状について，白紙委任は個人への委任となっているが，各議案に対して可否が取れるようにしてほしい」

検討結果：現行の会則に則り他の会員を代理人として議決権を行使することとする。但し，会員が総会時だけでなく，普段から意見を出せるように具体的な方法について検討を行っていく。

※会則第30条「総会に出席できない会員は，所定の委任状を書面または電磁的方法をもって提出することにより，他の会員を代理人として議決権を行使することができる」

⑤ 研究助成に関する規定の制定（吉川理事）

資料1：日本作業療法教育学会 研究助成に関する規定（2021年7月20日改訂）

⑥ 謝金規程の一部改定（講師謝金支払基準）

改定内容：

第5条 謝金の基準額（別表1 備考）「日本作業療法教育学会会員については，左記の半額を支給する」を削除する。

改定理由：

以前は会員数が少なく会員への謝金の支払いが十分できなかったが，近年は会員数や学術集会参加者数の増加により，収支のバランスがとれるようになり，会員に対しても講師基準に基づく金額の支払いが可能となったため。資料2：謝金規程（2021年7月20日改訂）

⑦ 積立金の活用に関する検討



2005年度より剰余金を特別な企画に備えて積立金としている。学会設立30周年特別企画等の積立金の活用方法について理事会で継続的に検討することを確認した。

⑧ 機関誌の電子化についての検討

機関誌を電子化した場合のメリットと課題について情報収集を行った。

(2) 企画運営担当 (佐藤会長, 酒井理事, 古山理事)

① 第25回日本作業療法教育学会の企画

② 日本作業療法教育学会課題研究

2019年度第4回理事会での審議の結果, 新型コロナウイルス感染症の拡大により作業療法士養成校における臨床実習の実施状況や代替教育の実態, 学生の就職活動への影響が懸念される

ことから, 当学会として緊急に調査を行う必要性を認め, 課題研究を下記の研究者に委託した。

研究テーマ: 新型コロナウイルス感染症による作業療法学生の臨床実習および就職活動への影響

研究期間: 2020年7月18日~2021年3月31日

研究目的: 2020年度の作業療法養成校卒業予定の学生における臨床実習の実施状況や代替教育の実態, 学生の就職活動への影響についてその一端を明らかにする。

委託研究者: 神戸学院大学 小川真寛氏 共同研究者: 東北福祉大学 佐藤善久氏

研究経費: 50,000円

(3) 学術集会担当 (大会長 西井前理事, 実行委員長 小川理事)

① 第25回日本作業療法教育学会の開催

会期: 2020年11月1日~15日

開催方法: Web開催, 11月8日ZoomによるWeb対面方式

テーマ: 「作業療法教育における学生評価の再考」 参加者: 62名(会員50名, 非会員12名)

講演・演題等:

教育講演「作業療法教育におけるOSCEの導入と学生評価」(鈴木孝治氏),

シンポジウム「作業療法参加型実習を考える」(衛藤道拓氏, 作間弘彬氏, 高島聡江氏)

特別講演「作業療法教育評価の変遷とこれから」(佐藤善久氏)

演題発表4演題。

② 学術集会運営の引き継ぎ

(4) 機関誌担当 (小川理事, 小林理事, 藤原理事)

① 第20巻1号(9月), 2号(3月)の発刊 ② 総説, 研究報告, 短報や資料などの募集

(5) ニュース編集担当 (藤原理事)

① ニュース発行 73号(2020年12月), 74号(2021年3月), 75号(2021年8月)

(6) ウェブ担当 (藪脇理事)

① 学会ウェブサイトの保守, 更新 ② ウェブ学会開催をふまえたサーバの整備

③ Facebookページの更新(第25回学術集会・26回学術大会の情報など)

(7) 研究助成担当 (吉川理事, 佐藤会長, 酒井理事)

① 研究助成申請の審査および採択

3件の応募があり, 審査の結果2件採択とした。

i) 研究テーマ:

「作業療法のクリニカルリーズニング自己評価尺度(SACROT)の尺度特性の検討 -作業療法学生における臨床実習経験, 職業アイデンティティとの関係性-

研究者: 丸山祥 研究費: 50,000円

ii) 研究テーマ:

「COVID-19による作業療法学生の就職後の実務教育の充実度への影響」

研究者: 田代大佑 研究費: 50,000円

② 研究助成に関する規定の検討

(8) 事務局 (近野事務局長, 三橋理事)

① 会則及び運用規程の改訂に伴う事務

② 入退会手続き, 会計管理, 会員名簿の管理, 理事会・総会, ニュースのメール配信(第73, 74, 75号)

③ 2020年度新入会者: 17名, 退会者: 5名(自主退会)

④ 2020 年度末 (2021. 7. 31 現在) 会員数 : 正会員 244 名, 賛助会員 1 法人

第 2 号議案 2020 年度 会計報告の件

(1) 決算報告 (近野事務局長)

① 収入の部 : 前年度繰越金を合わせ 1, 624, 089 円の収入

② 収支の部 : 支出総額 1, 265, 308 円

※COVID-19 により学会がオンライン開催となったこともあり, 第 25 回学術集会への補助金を翌年度の第 26 回学出大会の準備金に充てることとした.

(2) 第 25 回学術集会決算報告 (近野事務局長)

① 収入の部 : 198, 000 円 ② 支出の部 : 支出総額 168, 975 円

(3) 幹事意見 古川幹事より収支状況を適正に表示していると認める報告あり

第 3 号議案 2021 年度 事業計画 (案) の件 : 佐藤会長

(1) 総括担当 ① 理事会の開催 (3 回) ② 第 26 回総会の準備

(2) 企画運営担当

① 次期学術大会大会長の理事会への推薦.

② 書籍『作業療法参加型臨床実習 カリキュラムと実践 (仮)』の出版に向け執筆・調整

③ 第 56 回日本作業療法学会の企画セミナーへの応募を検討する.

(3) 機関誌編集担当

① 第 21 巻 1 号 (9 月), 2 号 (3 月) の発刊 ② 総説, 研究報告, 短報や資料などの募集

(4) ニュース編集担当

① 年 3 回発行. メールでの配信, ウェブサイト上での閲覧.

② 情報があれば, 適宜メールにて配信をおこなう.

(5) ウェブ担当

① 学会ウェブサイトの保守, 更新 ② 第 26 回学術大会のオンライン発表支援.

③ Facebook ページの更新 (第 25・26 回学術集会の情報など).

(6) 研究助成担当

① 作業療法教育に焦点を当てた研究に対して, 1 研究に対し 5~10 万円を 2 件を上限として公募.

② 研究助成申請の審査及び採択 ③ 助成研究の途中経過報告審査.

(7) 事務局

① 入退会の手続き ② 会計管理 ③ 会員名簿の管理 ④ 理事会・総会の準備

⑤ ニュースのメール配信 ⑥ 会員への情報提供.

第 4 号議案 2021 年度 予算 (案) の件 : 近野事務局長

(1) 予算案報告

① 収入の部 : 前年度繰越金を合わせて 1, 240, 781 円

② 収支の部 : 次期学術大会準備金として, 第 26 回学術大会特別会計繰出金 100, 000 円及び第 27 回学術大会準備金 100, 000 円を含む

<質疑応答>

第 1 号議案から第 4 号議案までの報告に関する質問や意見無し

<承認>

第 1 号議案について : 賛成多数で可決 (賛成 : 26/29 名)

第 2 号議案について : 賛成多数で可決 (賛成 : 29/29 名)

第 3 号議案について : 賛成多数で可決 (賛成 : 27/29 名)

第 4 号議案について : 賛成多数で可決 (賛成 : 26/29 名)

第 5 号議案 その他 総会参加者及び委任状から意見及び質疑応答など無し

7. 議長解任

8. 閉会のことば : 近野事務局長

以上

## 会員募集のお知らせ

作業療法教育学会では、会員を募集しています。

この学会では、より質の高い作業療法教育の実現を目指して、教育現場における様々な問題提起や問題解決に取り組んでいます。

主な活動は、年1回の学術大会、年2回の学術誌「作業療法教育研究」の発行、年2~4回のニュース発行、ホームページを通じた情報発信と情報共有です。現在の会員数251名、賛助会員1法人です。作業療法士教育に興味、関心のある方は、是非ご入会ください。お待ちしております。詳細は、日本作業療法教育学会ホームページ 入会案内 <http://www.joted.com/> をご覧ください。

入会金：1,000円 年会費：3,000円 賛助会員 一口10,000円  
振込口座 郵便振替 01320-2-58224 日本作業療法教育学会

問い合わせ先  
事務局 東京都江東区塩浜 2-22-10  
東京保健医療専門職大学 作業療学科  
近野研究室内 E-mail:otkyoiku@gmail.com

## 研究費助成 募集!!

### 2021年度日本作業療法教育研究助成について

日本作業療法教育研究助成は、作業療法教育の発展に寄与する研究に対し、1研究5万円~10万円、1年度2研究を上限に助成する制度です。2021年度の締め切りは2022年3月末日です。是非、ご応募ください。詳しい応募要項については、日本作業療法教育学会ホームページ <http://www.joted.com/> (研究費助成) をご覧ください。

EE

#### 編集後記

第26回作業療法教育学術大会が東川哲朗大会長、古山千佳子実行委員長のもとで開催されました。実践現場で働く多くの作業療法士に参加していただけたことを嬉しく思っています。作業療法教育への関心の高まりを肌で感じます。第27回大会は鈴木孝治大会長のもと、大阪で開催されます。もう一歩先へ進むための情報を発信するニュースでありたいと思います。皆様からの記事をお待ちしています。本年もどうぞよろしくお願いたします。

EE

日本作業療法教育学会ニュース76号 2022年1月10日発行／発行人 佐藤善久／編集人 藤原瑞穂

---